



# 大阪商業大学 FDニューズレター

第22号

2021年3月発行

## C O N T E N T S

1 令和2年度 FD研修会	1
2 令和2年度 公開授業および意見交換会	1
2-1 公開授業概要	1
2-2 意見交換会概要	2
2-3 公開授業を終えて	2
「経営戦略論Ⅱ」	
太田 一樹（総合経営学部経営学科 教授）	3
「経営組織論Ⅱ」	
大平 剛士（総合経営学部経営学科 助教）	4
「アジア経済論」	
金 早雪（経済学部経済学科 教授）	7
「WEB情報デザインⅡ」	
中谷 陽仁（公共学部公共学科 助教）	9
「世界史Ⅱ」	
小出 輝章（経済学部経済学科 准教授）	11
「経営学概論Ⅱ」	
辺見 佳奈子（総合経営学部経営学科 専任講師）	13
「情報活用A」	
佐藤 敦子（総合経営学部経営学科 助教）	15
「地域探究特殊講義」	
狭間 恵三子（公共学部公共学科 教授）	17
3 令和2年度 授業アンケート	19
3-1 実施方法	19
3-2 対象科目	20
3-3 アンケートの内容	20
3-4 教員からのフィードバック	20
3-5 結果の開示方法	21



## 1 令和2年度 FD研修会

第11回目にあたる今年度のFD研修会は、2020年9月2日（水）16:00に蒼天ホールにおいて開催された。今回のテーマは、昨年度に引き続き、「学生にとってわかりやすいシラバス作成」について教員の理解をより深めることに加えて、シラバスにもとづいた適正な成績評価の実施に向けた成績評価の取り扱いについての再確認であった。次第は以下のとおりである。

### 1 開会挨拶

西嶋 淳（副学長・経済学部長・経済学部経済学科 教授）

### 2 本学におけるシラバスの位置付け

片山 隆男（副学長・経済学部経済学科 教授）

### 3 ガイドブック改訂趣旨・改訂内容について

南方 建明（副学長・総合経営学部商学科 教授）

### 4 S-Navi!シラバスシステムの改変について


佐光 一成（教務課）

### 5 閉会挨拶

西嶋 淳（副学長・経済学部長・経済学部経済学科 教授）

昨年度の研修会では、外部講師を招き、「学生にとってわかりやすいシラバス作成」をテーマにした講演が行われた。本学においても、本学の学生に合わせたわかりやすいシラバスとはどのようなものかを検討した結果、シラバス作成の指針となる「WEBシラバスシステムガイドブック」が「シラバス作成要領」として改訂された。今回の研修会では、配布されたシラバス作成ガイド(令和2年9月改定版)を参照しながら、シラバス改定の趣旨と具体的な変更項目および変更点が説明された。

変更項目としては、「科目の概要」と「授業の進め方」が新たに追加された。変更点としては、「レポート試験」が通常の「定期試験」と同様の扱いで追加された。また、成績評価方法において出席・欠席を評価対象にすることができないこと、「評価外E」の定義、そして4年生対象の再試験の評価方法が明確にされた。



## 2 令和2年度 公開授業および意見交換会

本学では、教員同士がお互いの授業運営方法やその工夫について学ぶ機会を持つために、毎年、公開授業を行っている。今年度は、後期第9回目の授業にあたる2020年11月24日（火）～27日（金）に、8つの授業科目を対象に行われた。また、12月2日（水）には、公開授業を担当した教員と各授業を参観した教員による意見交換会が開催された。

### 2-1 公開授業概要

公開授業の対象となる授業科目は、その年度の新任教員が担当するもののほか、授業内容や受講者数などを勘案して選出されている。今年度の公開授業の対象となった授業科目およびその開講日時と教室は以下のとおりである。

月日	時限	科目名	担当教員	教室
11月24日 (火)	1	経営戦略論Ⅱ	太田 一樹 (総合経営学部経営学科 教授)	411
	3	経営組織論Ⅱ	大平 剛士 (総合経営学部経営学科 助教)	531
	5	アジア経済論	金 早雪 (経済学部経済学科 教授)	632
11月26日 (木)	1	WEB情報デザインⅡ	中谷 陽仁 (公共学部公共学科 助教)	情報3A
	2	世界史Ⅱ	小出 輝章 (経済学部経済学科 准教授)	531
	3	経営学概論Ⅱ	辺見 佳奈子 (総合経営学部経営学科 専任講師)	411
11月27日 (金)	3	情報活用A	佐藤 敦子 (総合経営学部経営学科 助教)	情報1
	5	地域探究特殊講義	狭間 恵三子 (公共学部公共学科 教授)	422

各授業では、興味深い点や参考になる点などについて、参観した教員が自由記述形式で回答するアンケートが実施された。このアンケート結果は、後日開催された意見交換会において、参加者に資料として配布された。

## 2-2 意見交換会概要

12月2日(水)16:30より、第11回公開授業意見交換会が本館6階大会議室において開催された。参加者は、公開授業の担当教員と参観教員、FD委員の計13名であった。

FD委員会委員長の西嶋淳教授による開会の挨拶が行われた後、公開授業検討ワーキングリーダーの森田学教授の司会進行で、公開授業の担当教員から授業を進めるうえでの工夫や困難を感じている点などが順次報告された。続いて各授業の参観教員から感想や意見が述べられた。



意見交換会の様子

## 2-3 公開授業を終えて

公開授業を担当した8名の教員には、授業における工夫や苦心、公開授業を終えた感想に加えて、参観教員によるアンケート結果や意見交換会で出たコメントに対する回答を文章の形でもまとめてもらった。以下はその文章である。(公開授業実施順)。

## 「経営戦略論Ⅱ」

太田 一樹

(総合経営学部経営学科 教授)

本年4月に着任し、「経営戦略論Ⅰ・Ⅱ」を担当しています。この度は、公開授業に参加していただいた先生方からとても有意義で貴重なご意見・アドバイスを頂戴しました。改めて、紙面を借りてお礼を申し上げます。

また、12月2日開催の意見交換会の場では、先生方の授業における取り組み方法についての話を聞かせていただき、参考になることが多々ありました。今回はコロナ禍での対面授業のために、いくつかの制約もありましたが、反省点を含め、今後の授業に活かしていく所存です。引き続きアドバイスをよろしくお願い申し上げます。

### 1. 授業のポイントと授業内容

経営戦略論は、経営学の中でも基礎的かつ実践的な科目として位置づけられます。したがって、学ぶべき範囲が広く、理論的思考だけでなく実践的思考の涵養が求められていることも特徴の1つとしてあげられています。今回の事業では、事業システムを取り上げた授業を実施しました。いわゆる実務界ではビジネス・モデルとかビジネス・システムと呼ばれているものです。



そのエッセンスは、製品やサービス自体の優位性にも増して、仕組み全体で競争力を高めることが、ますます大切になってきているという点にあります。

重要なイシューなのですが、仕組み全体の競争力の源泉を理解するには、抽象的な概念にも言及する必要があります。他の科目もそうかと思いますが、抽象的な話になると関心を示さなくなる学生も少なからずいます。そこで、親しみやすい企業事例から説明を始めるようにしています。今回は文具業界の「アスクル」を取りあげました。予め、ポイントとなる事項についてmanabaに宿題（小テスト機能を利用）として出題しておき、テキストやWEBなどで予習してもらってから、授業に臨んでもらうようにしています。

授業では、解答内容を一覧にまとめ、学生たちに見せることによって（学生の氏名などは秘匿）、関心を向けてもらうようにしています（コロナ禍でなければ、見解の違う数人の学生に報告してもらい、私のコメントを織り交ぜながら議論を高めたいところです）。

学生の解答を題材に、コメントをしながら新たな見方や考え方を教えていきます（テキストの内容へと誘導していきます）。また、ビデオ（YouTubeやDVDなど）やWEBを見せながら、できるだけ視覚にも訴求して興味を持つようにと考えています。

今回の授業では、アスクルの事例を通して、事業システムを構築することの意義（商流、物流、情報流などの再設計）、必ず生じる矛盾の存在、それを解決する戦略思考の大切さなど、外部からでは見え



ない点に、競争優位の源泉のあることに気づいてもらうように心がけました。また、次回の授業では、この事例を一般化して他の産業（企業）に応用していくためには何が必要なのかについて学生に発言してもらいながら、理論（事業システムが持つ様々な経済性など）の説明をしました。理論を学ぶことの大切さを納得してくれればと願っています。

## 2. 授業で重視している点

授業で重視している主な点を要約すると、以下のとおりです。

- ① 経営学全体の科目にも該当することだと思いますが、実業界で働いたことのない学生たちに（アルバイトの経験はあるかと思いますが）、経営学の重要性と必要性をまず認識してもらうことが先決だと考えています。関心を向けるために「0から1」の話をして、自らのキャリアにとって役立つものだとの認識を持ってもらうようにしています。
- ② 関心を高めるためにわかりやすい企業事例から説明を始めるようにしています。また、ビデオ教材やWEBなどを適宜活用しています。その後、理論の説明をするようにしています。
- ③ 身近な題材を取り上げたり、学生に意見を求めたりして、集中力が途切れない工夫を心がけています。また理論を学ぶことの意義と楽しさを伝える工夫が必要だと考えています。
- ④ コロナ禍なので双方向形式の授業の展開は難しいですが、manabaで事前課題を提供しシームレスに教室の授業につなげる工夫をすることにより、アクティブ・ラーニングの長所を組み込んだ授業のあり方を追求したいと考えています。

## 3. 最後に

公開授業および意見交換会の中では、貴重な話をお聞かせいただきありがとうございました。学生一人ひとりが潜在的に持っている能力に配慮しながら、自信を持って世に貢献できる人物に育てもらうための教育的取り組みに微力ながら尽力したいと考えています。また、コロナ禍でいろいろな制約もありましたが、同時に、遠隔授業と対面授業の新たな組合せの可能性についても気づかされることも多々ありました。反省点を含め、今後の授業に活かしていく所存です。今回の機会に対して心より感謝を申し上げます。



### 「経営組織論Ⅱ」

大平 剛士

（総合経営学部経営学科 助教）

#### 1. はじめに

私は今年度（2020年4月）より本学に着任し、「経営組織論」を担当しています。本学に着任する以前には教育経験がありませんでしたので、履修している学生の学習到達度などを慎重に確認しながら、毎週の授業運営を行っています。また、今年度の前期の「経営組織論Ⅰ」はオンライン授業でしたが、後期は対面授業（第11回目以降はオンライン授業）ということで、学生が授業を受ける様子を確認することができるため、学生の興味・関心をより高めるような改善を行うことも心がけています。以下では、「経営組織論Ⅱ」の授業の概要と工夫点、今後の課題について述べさせていただきます。

## 2. 授業の概要

後期の「経営組織論Ⅱ」は組織そのものや組織間関係を分析する「マクロ組織論」を学ぶ科目です。授業の進め方として、第1～9回は組織の有効性や組織構造、組織文化などの組織そのものに関する理論や概念を、第10～14回は資源依存理論や取引コスト理論、ネットワーク理論などの組織間関係に関する理論や概念を解説しています。本科目の履修を通じて、将来、企業等の組織の一員や管理職となった際に、



組織そのものや組織と環境の関係を見直すという組織全体の視点から、組織や職場の問題発見・解決できる発想を身につけてもらうことを目標としています。

今回（第9回目）の授業内容は、組織におけるテクノロジー（技術）をテーマに、組織と技術の関係性についての考え方を説明しました。技術は組織において製品・サービスをより効果的に生み出すために使われるものと考えられます。そのような技術が組織の中でどのように用いられるのかに関する3つの視点（ツールとしての技術、プロキシとしての技術、アンサンブルとしての技術）を紹介し、それぞれの視点に対応する YouTube の動画を見てもらうことで、近年、技術とそれを活用する人間との相互作用の重要性が組織において高まっていることを解説しました。

## 3. 授業に関する工夫点と今後の課題

### 3.1. イラストを用いた授業資料の作成

マクロ組織論の理論や概念をわかりやすくイメージしてもらえるように、授業資料にはできるだけイラストを挿入しています。授業資料の文字だけではマクロ組織論の抽象的な知識を理解するのは難しいと思われるため、できる限りパワーポイントの授業スライド1枚ごとに1つ以上、フリー素材の「いらすとや」（<https://www.irasutoya.com/>）のイラストを挿入するようにしています。

いらすとやのイラストには、会社関連のイラストが多数掲載されているため、用語の意味を表すようなイラストを使用するようにしています。前期の「経営組織論Ⅰ」でも同様のイラストを使用していましたが、前期の授業アンケートの中には、「いらすとやのイラストが良かった」という好意的な感想もありましたので、学生の学びにもポジティブな影響があるのではないかと考えています。

今後の課題として、イラスト以外にも、例えば、箇条書きを図表化するなど、視覚的にわかりやすくなるような授業資料の工夫もさらに必要と考えています。

### 3.2. 授業に関連した動画の利用

毎週の授業資料には、できる限り、授業内容に関連する YouTube の動画1つ以上を manaba に掲載するようにしています。学生への過度な通信の負担を避けるために、基本的には1～3分程度の短時間の動画を中心に使用しており、特に授業で紹介した理論や概念に関連する社会問題や国の政策、企業の取り組みなどを扱ったニュースや企業の PR 動画を取り上げています。通常は、授業中に動画を見てもらうようにしていますが、授業後の manaba の小テストでも動画に関連する問題を出題することや、また欠席者へのフォローアップに対応することなどから、manaba にも掲載して授業後にも閲覧できるようにしています。授業中に動画を流すことで、学生が前を向いて見る様子を観察できるため、どれくらい関心を持っ

ていそうかを瞬時に把握することができます。

今後の課題として、YouTube等の動画（特に企業のPR動画）については、永続的な動画掲載が約束されているわけではないため、学期終了後に動画が削除されている場合もあります（実際、前期で取り上げた動画の一部は削除されていました）。したがって、学期中も削除された動画がないかどうかチェックしつつ、次年度以降も最新的话题を紹介できるように、授業で取り上げる動画を入れ替えていく必要があると考えています。

### 3.3. 授業への集中度を高めるための座席指定

学生が授業に集中できるように、「経営組織論Ⅱ」では第3回目から座席指定を実施しています。特に今学期は新型コロナウイルス感染症対策に関連して、学生の授業中の私語を防ぐ必要があります。教室の座席図をもとに、座席情報（エリア、列、机の「右」「中」「左」）を作成し、座席情報と学生情報をランダムに紐づけます。その後、各学生のメールアドレスに outlook を用いたメール送信機能を用いて、座席情報を送ります。メールが届いていない場合は、授業前に掲示している座席一覧を確認して着席するように案内しています。

座席指定についての学生の評価は今学期最後の独自の授業アンケートで確認したいと考えていますが、これまで友人と一緒に授業を受ける学生が多かったと思いますので、友人と話しやすく、授業に集中できない環境が作られやすかったのではないかと感じています。ただ、そのような学生の中には、1人であれば集中して授業を受けることができる学生も多いと思います。大学の授業で座席指定までするのかというご意見もあるかと思いますが、座席指定は学生が集中して授業に参加できる環境づくりの1つの方法ではないかと考えています。

今後の課題として、大学のメールアドレスを普段使用していない学生へのメール以外による座席情報の通知方法や、指定座席に座っていない学生への対応方法を検討する必要があります。また、今学期の「経営組織論Ⅱ」は教室定員と履修人数（324名）が同一であったため、座席変更の希望を聞いた上での座席指定を行いませんでした。教室の教卓に近い場所で授業を受けたい学生や、特別な配慮が必要な学生もいるため、次年度は学生の事情に配慮しながら座席指定を実施したいと考えています。

## 4. おわりに

「経営組織論Ⅱ」の授業運営において、イラストの挿入や動画の活用、座席指定などのいくつかの取り組みを行っています。今回の公開授業を参観していただいた先生方の授業アンケートでは、「授業資料が丁寧に詳しく作成されている」、「授業資料・動画を活用して、授業の組み立てが工夫されている」というコメントをいただきました。先生方のコメントを励みに、これからも授業資料や動画を工夫していきたいと考えています。

しかしながら、まだまだ課題や改善点も多く存在します。前述の授業アンケートでは、「授業資料を持参している学生の方が少ない」というコメントもいただきました。授業資料に関しては、新型コロナウイルス感染症予防のために授業開始時に一斉配布しないようにしていますが、プリンタを持たない学生も多いため、スマホで授業資料を閲覧しながら授業を受けることも可としています。しかし、スマホで授業資料を見るだけだと、知識の理解が十分進まないことも考えられますので、今後、manabaの機能を活用することで、授業中や授業前後で授業資料をしっかりと確認する機会をつくっていきたいと考えています。その他の課題に対しても、次年度以降も改善を続けていくことで、より深い学生の学びにつなげていきたいと考えております。

# 「アジア経済論Ⅱ」

金 早雪

(経済学部経済学科 教授)

## 1. 着任して初のWEB講義（前期「アジア経済論Ⅰ」）

令和2年4月に本学に着任して初の講義「アジア経済論Ⅰ」は、人生初のWEB講義となり、ついぞ受講生と顔を合わせることなく終わりました。その間、毎週、講義開始時間に合わせて、資料と小テスト（5点×15回）を1週間アップし、期末にWEBレポートを提出してもらいました。講義資料では、重要なキーワードは**赤字ゴシック**、それ準じる用語などは**青字**にし、JETRO などアジア諸国のデータにアクセスするなどの課題には★マークをつけ、小テストは主にこれらから出題しました。（ちなみに、余談は**斜字体**にしました。）

受講登録者は50人弱でしたが、皆、まじめに取り組んでいる印象でした。

とはいえ、受講生の反応が見えないので、折り返し時期の6月9日～21日にWEBアンケートをとってみました。表1はアンケートで用いた質問とその回答分布です。大方の学生がこちらの意をくんだ回答をしてくれている印象です。学生の授業1回分にかかる時間を見るとやや少ないようなので（問2参照）、後半は取り組み時間を長くするために講義資料を少し増やしました。

表1 6月9日～21日に実施したWEBアンケートの結果（回答者数40人）

1. アジアに関心がありますか？	大いにある	まずまずある	あまりない	まったくない
	20.0%	72.5%	5.0%	2.5%
2. これまでこの授業1回分について、資料を読んだり調べたり小テスト登録・回答確認まで、平均どのくらい時間がかかりましたか？	30分未満	30分～60分未満	60分～90分未満	90分以上
	15.0%	62.5%	20.0%	2.5%
3. これまでこの授業の難易度は？	難しい	やや難しい	やや易しい	易しい
	25.0%	70.0%	5.0%	0.0%
4. これまでのこの授業のWEB資料の分量は？	多い	やや多い	やや少ない	少ない
	7.5%	82.5%	10.0%	0.0%
5. 資料や小テストをほぼ1週間公開しています。長いですか、短いですか？	長い（もっと集約したほうがよい）	適度	短い（もっと長くしたほうがよい）	
	7.5%	75.0%	17.5%	
6. 最後に、何か要望や気づいたことがあれば自由にどうぞ。（40字程度*5行まで可）	かなりしっかり読み込まないと小テストがスムーズに解けないのでやりがいがあります。これからも宜しくお願いします。/ 本日（6月9日）の小テストの間2、選択肢Eの冒頭で脱字があると思われます。/ このままでいいと思います。/ たまに難しいのがあります。/ 毎週丁寧な説明のレジュメありがとうございます。詳しくアジアのことについて知れるのでありがたいです。/ 特にないです。新しい試みの中ありがとうございます。			

## 2. 後期「アジア経済論Ⅱ」の概要

9月29日、初の対面講義に向けて、早めに632教室に赴きました。機器操作がわからず、向かいの教室から出てこられた方に聞いて、「そうダカダ！」と教務課へ往復ダッシュ。戻ってきて無事に資料画面がセットできたので、学生の了解を得て記念写真を撮らせてもらいました（図1参照）。受講登録者は前期から半減してしまって26人ですが、出席者は毎回20人程度です。

講義は、「教員が何を教えるか」ではなく、「学生が何を学ぶか」という視点に立つようにと頭では理解しているつもりですが、正直、どこまでできているか心もとない



図1 初の対面講義直前の632教室





表2 11月24日に実施したアンケートの結果（回答者数20人）

	人数（%）	1. 欠席回数			
		なし （8人）	1-2回 （4人）	3回以上 （6人）	無回答 （2人）
2. 受講前からアジアに関心がありましたか？					
かなりあった	3（15%）	1	0	0	2
そこそこあった	13（65%）	5	4	4	0
あまりなかった	4（20%）	2	0	2	0
皆無だった	0（0%）	0	0	0	0
3. 講義を聞いてアジアへの関心が高まりましたか？					
かなり高まった	5（25%）	2	0	3	0
少し高まった	12（60%）	5	3	2	2
あまり高まらなかった	3（20%）	1	1	1	0
皆無	0（0%）	0	0	0	0
4. 講義はわかりやすいですか？					
大変わかりやすい	4（20%）	3	0	0	1
わりとわかりやすい	8（40%）	3	1	3	1
ややわかりにくい	8（40%）	2	3	3	0
大変わかりにくい	0（0%）	0	0	0	0
5. 配布資料は？					
普段の8シートくらいがよい	14（70%）	4	3	6	1
本日の12シートくらいがよい	4（20%）	3	0	0	1
その他（どちらでもよい）	2（10%）	1	1	0	0
6. その他（自由意見）	大変難しかったが国々の背景など交えてわかりやすかった。/とてもわかりやすく興味がわきます。/ RCEPについて説明してほしい。/ 12シートの場合、空欄が小さいので2枚以上でもよいから大きくしてほしい。				

最後に、今後の課題として、コロナ危機をチャンスととらえて、WEB（manaba）についてもっと熟知して上手に活用しないといけないと感じています。YouTubeへの動画アップは避けたいですが、Zoomならゼミなどで使えそうですし、manabaにある練習問題や協働（グループ）学習のほか、双方向コミュニケーションなどは、もっと使いこなしたいと思う次第です。



## 「WEB情報デザインⅡ」

中谷 陽仁

（公共学部公共学科 助教）

### 1. はじめに

今回の公開授業において、ご多忙の中、先生方やご担当職員の方にご参加いただき誠にありがとうございます。意見交換会も含め、このような取り組みに参加させていただいたことに感謝申し上げます。

### 2. 授業概要

対象となったのは「WEB情報デザインⅡ」で、この科目は2年生以上を対象とした実習系の情報の副専攻科目として開講しており、「Javascript」というプログラミング言語の基本文法を身につけてもらうことを目標としている。

公開授業は情報3A教室において11月26日（木曜日）1限目に行われた。この科目の履修者は3名であるが、うち1名は履修登録のみで1度も受講していない。公開授業当日は1名が体調不良で欠席し、1名のみ出席の中行われた。

公開授業で行われた授業内容は、プログラミングの基本構造である「順次実行」、「条件分岐」、「繰り返し」のうち、条件分岐について学習してもらう内容であった。

具体的な授業の進め方については、まず前回の振り返りを行うことで、これまでに学習してきた内容を思い出してもらい、今回の授業の内容に取り組む準備ができるように配慮するところから始めた。次に、今回新たに学習する内容を説明しながら、学生にプログラミングの実習を行ってもらう。実習の内容については、同じような内容を繰り返しつつ、少しずつ難しくしながら、新たな内容について理解してもらうように工夫している。

そして最後に、各自のペースで課題に取り組むようにしてもらった。課題に関して、まず初めは自力で解くように促し、無理な場合は虫食いになっているヒントが書かれたプリントを参考に解くように促す。どうしても解けない場合のために解答例を示しているが、ほとんどの学生はこちらの指示通り、初めはノーヒントでの解答を試み、次に過去に作成したプログラムを参考にしたりするなどの試行錯誤を試みながら、パズルを解くような感覚でプログラミングを学習しているように見受けられる。

### 3. 各授業におけるコンセプトと工夫

私は学生に対し、「ほめて伸ばす」ことを重視して授業や指導を行っている。どのような問題を解決する場合でも、初めからうまくいく場合は少なく、特にプログラミングは常に間違い（バグ）との戦いであり、トライ・アンド・エラーがつきものである。加えて、パソコンに不慣れな学生も多く、実習がうまくできない学生が大半であり、放っておくとすぐに諦めてしまう。そこで、私は学生に対して「初めからうまくできなくても大丈夫」ということを強調し、常に励ますように全体に声かけを行い、心が折れないように細心の注意を払うようにしている。

また、各自のペースで実習を行っている時間については、机間巡視を行うなどして学生の様子を観察し、やる気を失って手を止めていたり、プログラムの間違いに気づくことができずに困っていたりする学生がいた場合には積極的に声をかけるようにしている。さらに、その学生がどこでつまづいているのかを見極め、その学生の能力や問題の難易度に応じ、自力で解決できる「越えやすいハードル」を提供するように心がけている。そうすることにより学生は自ら考えて問題を解決することができるようになり、その小さな成功の積み重ねが自信につながって学習への意欲につながると考える。この机間巡視による学生の観察や学習困難点の見極めについては、2006年から昨年まで続けていたティーチング・アシスタントや、2012年から昨年まで続けていた高校の非常勤講師の経験を活かすことができている。

また、授業内容については、プログラミングの授業で実際にゲームを作ってみたりするなど、興味を持ってもらう工夫をしている。

これらの、「ほめて伸ばす」、「越えやすいハードル」、「興味を持てる内容」の3点をコンセプトとし、学習意欲を維持してもらうことに努め、途中で授業に来なくなる学生を少なくするように授業を行っている。



#### 4. コロナによる授業時間短縮への対応について

授業時間が短縮したことへの対応方法についてであるが、私はいずれの科目も前半は説明をし、後半は各自のペースで実習を行ってもらう形式で授業を展開している。この前半の説明については例年通りの分量と時間を割く一方で、後半の実習で課す課題については、必修で行う課題と加点で行う課題の配分を変更するという対応を取ることにした。そうすることで、全体の内容は例年と同じになり、必修部分のみ学習して終わる学生に関しては例年より分量が減ってしまうものの、加点部分を含めて学習する学生に関しては例年と同じ分量の学習をすることになり、教育の質を確保することができると思う。

実際に、いずれの科目においても一定数の学生が加点課題も含めて問題を解き、提出してくれている。このような意欲のある学生に対しては、授業時間の短縮の影響を軽減し、学習の質を確保できていると実感している。

#### 5. おわりに

公開授業に参加いただいた先生から、「履修生が少なく残念であり、シラバスの書き方を工夫してはどうか」というご意見をいただきました。この点につきましては、学生がこの科目に興味を持ってもらえるように、より分かりやすく科目の概要や毎回の授業内容を伝えられるように工夫するなど、シラバスの内容について改善する所存です。

この度は公開授業にご参加いただき、貴重なご意見をいただきありがとうございました。心より感謝を申し上げます。



## 「世界史Ⅱ」

小出 輝章

(経済学部経済学科 准教授)

#### 1. 講義科目の概要

担当する「世界史Ⅱ」は「教員養成に係る授業科目」の1つであり、その講義内容は特定の時期や地域・国、分野にテーマを絞るのではなく、広く全般を取り扱う、いわゆる通史である。教職関係の科目ということで、文部科学省の方針などについて教務課から情報やアドバイスをもらいながらシラバス等を作成した。受講生は1年生、2年生が多いが、実際にはほとんどの学生は教職課程の学生ではない。本年度は300名を超える学生が受講している。

#### 2. 新型コロナウイルス感染症予防対策

後期の授業形式は、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、授業資料の事前 manaba 掲載および学生の事前予習、定員以上の大きな教室の使用、授業時間の短縮(40~60分)という大学から示された条件のもとで、対面式で行うというものであった。

#### 3. 授業運営上の留意点と授業での取り組み

授業運営にあたって留意したことは、①授業資料は基本的事項を整理してあるが、理解を促すために地図、概念図、補足説明、重要人物、現代とのつながり、背景説明などをスライド(パワーポイント)で示したこと、②授業資料を読んだ学生の復習問題を解答つきで資料に掲載していること、といった学生の理解の促進である。



本来であれば、授業資料に空欄箇所（重要ポイント）を設けて、授業の中で重要ポイントをスライドで示して記入させたかったが、授業時間の関係上困難であったので今回は見送った。その代わりに、資料上では赤字で示し、スライドでも重要事項であることを強調した。また授業内容に関わることを小レポート課題にした。



授業資料は学生が読めば内容を理解できるように努めた。ストーリー（物語）がある歴史系科目ということもあり、叙述することは比較的容易だが、文章をひたすら読むというだけでは学生の負担も重くなること、さらに重要点の不鮮明になりかねないことなどの問題もあるので、重要事項の整理と簡単な叙述を心がけた。また資料は1週間前にあげて、十分な予習時間を確保した。

学生からの質問は授業時だけでなく、manabaに「質問コーナー」を設けて、質問者と教員のみ閲覧できるようにし、質問・回答できるようにしておいた。12月上旬現在、質問数は30未満であったが、授業の内容に関する質問やレポートの形式についての確認などのほかは、成績評価に関する問い合わせが多かった。

上記条件での授業は、教員にとっても受講生にとっても手探りの部分があったが、第10週授業終了時まで大きなトラブルなどはなかった。授業の取り組み上の工夫として、授業資料を予習したうえで、さらに理解をしてもらうということを意識して準備したスライドを踏まえて、口頭で重要事項を補足説明した。具体的には以下のとおりである。

- ①過去と現代との関係：歴史が過去の蓄積である以上、その関係を説明することは重要である。また過去の出来事などが現在に影響を及ぼしていることもあるので、その点も理解する必要がある。
- ②ポイントを簡潔な概念図で整理：複雑になればなるほど説明が細かくなり、全体を見渡せなくなるので、要点をまとめて示し説明することは重要である。
- ③戦争や事件が起きた場所を地図で示す：場所の確認は重要である。世界史が地理と結びついている点も再三注意喚起した。併せて現代の状況も細く説明することもあった。
- ④その他：重要人物の肖像画（写真）を示す。イメージをしてもらうための補足説明である。

今回の公開授業では、19世紀後半のヨーロッパ国際政治から20世紀初めの第一次世界大戦までを扱ったので、とくに現代とのかかわりを強く意識した授業となった。

なお、教科書指定はしていないが、高校時代の教科書や参考書が役立つことをあらかじめ伝えてある。授業中にそうした教科書類を開いている学生も、少数ではあるが確認できる。ただし、どの程度の学生が所持しているか、あるいは授業前に読んできているかなど不明な点も多い。

#### 4. 今後の課題およびコメント

本授業の特性上、教職志望者向けの講義となっていることもあり、大多数である一般学生の学ぶ意義についての取り扱いが難しいのが現状である。スライドを利用し、現在とのかかわりを強調し、授業計画でも第二次世界大戦後の世界を3回分充当し、関連する書籍類や映画などを逐次紹介するのは、少しでも


学ぶ意義を理解し、興味を持ってもらうためでもある。

授業終了後、参観された先生方から以下のような貴重なコメントをいただいた。

- ・テーマ的に戦争の話が中心だったという印象を受けた。
- ・ストーリー立てた説明や地図などを用いて視覚化して、理解促進の工夫が見られる。

19世紀後半から20世紀前半のヨーロッパは戦争が多かったことは事実であるが、戦争以外の経済社会的変動や科学技術の発展、さらに文化芸術分野の成果には目を見張るものがある。ご指摘いただいたコメントで、このような点への配慮が欠けていることに気づいた。学生の視野を広める上でマイナスになりかねないので、授業資料等の見直しが必要であると考えている。

参観された先生方には最後まで授業にお付き合いいただいたこと、またFD委員会には今回公開授業の場を設けて自身の講義について再確認させていただけたことに感謝申し上げます。



## 「経営学概論Ⅱ」

辺見 佳奈子

(総合経営学部経営学科 専任講師)

### 1. はじめに

今回、本学のFD活動の1つである公開授業の対象となったのは、木曜日3時間目の「経営学概論Ⅱ」です。「経営学概論Ⅱ」は必修科目であり、当該授業の受講者数は167名となっています。「経営学概論Ⅱ」は同一シラバスをもとに、経営学の基礎的知識の習得を目標としています。これは、2年次以降の専門的な学習へとスムーズに移行するためのものと認識しています。今回はこのような重要な必修科目が公開授業の対象科目となり、多くのご意見をいただくことができ感謝しております。

さて、以下では、まずは当該授業における授業方法について述べた後、今後の課題について考えてみたいと思います。

### 2. 授業方法について

まず授業方法ですが、本授業は講義形式で行っています。教員が黒板の前で講義をし、学生が前を向いて聞いているという一般的なスタイルです。他方で、グループワークなどは行っていません。これは、今年度に限っては新型コロナウイルスによるところもありますが、本授業の主たる目的が経営学の基礎的知識の理解にあるため、基本的には座学による学習を考えています。以上のような授業のスタイルで行っていますが、工夫している点は以下の通りです。

第1に、今後の学習へのスムーズな移行ができるように、他の科目との関連を伝えるようにしています。「経営学概論Ⅱ」は経営学の基礎を経営戦略論、経営組織論、経営管理論の3つに分けて学習します。その際、今学習している内容が3つのうちのどれにあたり、より深く学習したい場合にはどの科目を受講すればよいのかをお話するようにしています。

第2に、穴抜きのプリントを配布しています。プリントの中の重要語句を穴抜きにして、学生に記入してもらっています。これには次の2つの理由があります。1つは重要語句がどれかを一目で理解してもらおうことです。もう1つは学生に集中力を維持してもらうためです。すなわち、少しボーっとしているときでも穴抜きの語句を埋めないといけないということで、集中力を取り戻してもらえます。

第3に、講義の中で具体的にノートを取り方を指示するようにしています。教員の講義を理解して自分でノートを取っていくことが最も学習効果が高いのではないかと考え、プリントにはいろいろ書き込める余白を作っていますが、学生の中にはノートの取り方がわからない学生が多数いることがわかってきました。例えば、「Aと書いて」と具体的に指示するとノートにAと書くことはできますが、教員の話から重要な点を理解し、素早くノートを取るといことが難しいようです。ですので、可能な限り「ここはアンダーラインを引いておくといいね」など具体的に指示し、ノートの取り方を学習してもらうようにしています。

第4に、数回に一度は小テストを行っています。受講者数が多いので manaba を用いて行っています。基本的には授業内容を理解しているかを確認するものですが、時折、自分で本を調べてくるようにといった小テストも課しています。なるべく指示を具体化すると、その通りに課題に取り組んでくれる学生が多くいることがわかってきましたので、今後も面白い小テストや課題を考えていきたいと思ひます。

### 3. 今後の課題とその対応 ～意見交換会の結果を受けて～

12月2日(水)の意見交換会でご指摘いただいた本授業の課題およびその対応については、次のように考えています。

まず、出席率や学生の受講態度に関する問題点についてご指摘いただきました。本授業の受講生は2年生以上が多く、1年次に「経営学概論Ⅱ」の単位取得に至らなかったために再度受講している学生が多数います。それにもかかわらず、授業の出席率や受講態度に問題がないとはいえません。特に後方の席に座っている学生はスマホばかりを見ているという実態があります。しかしながら、大教室での授業であり、かつ授業時間が短縮されている中で後ろの学生ばかりを注意し続けることは、前方でまじめ



に受講している学生の授業時間を奪っていることにもなります。

加えて、受講者数167名に対し初回から出席者は100名程度であり、そもそもの出席者数が少数であることから考えると(他の授業もそのような傾向にあるようです)、学生のモチベーションに対して本当に各教員の授業内容が関係しているのか疑問でもあります。つきましては、この課題に対して教員が(特に本授業のように受講生が多数である場合は)できることは少ないとは思いますが、今後も可能な限り工夫を重ね、学生が聞きたくなるような興味深い授業を提供するように心がけたいと思ひます。他方で、一部の学生においてはまじめに受講し、プリントの間違いを指摘してくれるほどであることも追記しておきます。決して、すべての学生のモチベーションが低いわけではありません。

2つ目に、manaba にアップロードされた資料を各自で印刷させるようにすると学生が資料を持参しないので、資料は配布したほうが良い、とのアドバイスをいただきました。実は本授業では従来から資料を配布しておりましたが、新型コロナウイルスの関係で授業方法に制限が加わっております。先日教務課に確認したところ、「資料を前に置いて学生に取ってもらうのは資料の前に学生が密集するため避けてほしい」、「前から後ろに資料を送る場合、学生の手から手に資料が触れることになるので避けてほしい」との指示があり、配布資料は教員から学生に一枚ずつ手渡しを行うようにとのことでした。つきましては、



大教室で資料を手渡しすると授業時間が足りなくなるということで、第9週目より資料をアップロードしている次第です。これらは新型コロナウイルス対策として致し方ないことですが、今後も学生にとって最も良い教材の提供方法を考えていきたいと思えます。


3つ目に、プリントの穴抜きの解答が manaba にアップロードされていると学生が授業に集中しない、とのご意見を頂戴いたしました。ご指摘の通り、解答をアップロードしない方が学生の集中力が高まることは間違いのないことです。今年度は新型コロナウイルスで来校できない学生への配慮として、解答つき資料をアップロードしておりますが、来年度以降も対面講義を継続できることになれば、新型コロナウイルスの様子を見ながらではありますが、解答のアップロードは一度やめてみようかと考えています。

そして、講義で使用されている経営学の用語が適切ではないのでは、とのご意見もいただきました。本授業の内容は経営学の基礎的知識として、複数のテキストを確認し、共通して取り上げられている部分を中心に構成しております。つきましては、経営学の各分野において一般的に理解されていることを説明しています。もちろん、研究者としてはこの「一般的な理解」を疑うことで新たな知識を創造することが必要であり、意見交換会でいただいたご意見は非常に有益なものでありましたが、本授業の内容については今後も諸々のテキストをベースとした基礎知識の解説を行おうと考えています。

意見交換会では上記の点以外にも多数の有益なご意見をいただきました。公開授業および意見交換会にてご意見をいただきました先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

#### 4. おわりに

今回の公開授業では、多くの先生にアドバイスをいただき感謝いたします。ある先生からは、「穴抜きに番号やアルファベットを書いておくと、学生が今どこを話しているのか分かりやすくなる」とのアドバイスをいただき、早速翌週の授業より実践しております。このような些細なことも1人で授業をしていると意外と気がつかないもので、本学の公開授業の意義を感じています。今後も努力を重ねてまいりたいと思えます。



### 「情報活用 A」

佐藤 敦子

(総合経営学部経営学科 助教)

#### 1. 授業概要

今回の公開授業の対象であった授業は、副専攻科目1年次配当の情報科目(情報基礎領域)「情報活用 A」である。本科目では、複数の教員が同一の授業計画のもとで、それぞれ異なる授業運営方法で講義を行っている。1年次配当の実習科目であることから、ソフトウェア(主にプレゼンテーション資料作成ソフトである Microsoft PowerPoint)の基礎を習得し、作成した資料を用いてプレゼンテーションを実践することで、伝えたいことを正確に表現する表現能力の向上とプレゼンテーション能力の向上を目指した授業となっている。

#### 2. 授業運営における工夫

公開授業の対象となった金曜日3限目のクラスは、履修人数36名と、情報実習室1の最大定員数のク



ラスである。1年次配当科目ではあるが全学年が履修可能であるため、1年生～4年生が履修している。人数制限科目であることから、初回授業時に抽選を行うことになる。シラバスに記載した内容を含め、担当教員（クラス・曜日時限）ごとに授業運営が違うことも伝え、そのことを了承した上で抽選に参加し、履修するように学生には必ず伝えている。履



修した学生に履修理由を問うと、本授業の目標である「表現能力の向上」、「プレゼンテーション能力の向上」と答えるが、ほとんどの学生の本心はそれとは違うことは承知している。よって、目的・意識の差がある学生に対し、「履修したからには、いかに最後まで授業に参加し、やり遂げてもらうか、やり遂げたと感じてもらうか」ということを心がけ、授業運営にあたっている。

そのための工夫として、まず新しい単元や実習課題に入るたびに「必ず取り組み、提出する」よう声かけを行うようにしている。履修者の中にはパソコンやソフトウェアを使用することに対して、使用前から苦手意識を持っている（できない、難しいと思っている）学生も少なからずいることから、積極的・主体的に授業に参加することを促す意味でも、「やってみないと本当に難しいものかどうかわからない」、「初めから完璧なものを求めてはいない。課題として最低限指示されていることは守り、取り組む」、「提出しないと取り組んだ結果がこちらにわからない」と伝え、実習課題には必ず取り組み提出することと、それが成績評価につながっていることを意識させている。

次に実習課題については、「情報を活用すること」を考え、授業毎に課した課題は翌週の授業内容でできる限り使用し、その回の課題につながるようにしている。以前の提出課題を使用することは、授業内容のつながりになるだけでなく、提出した課題が回を重ねるごとにブラッシュアップされていくのを見ることで、学生自身が実習したもの（成果物）に対して達成感や満足感を得ることができるのではないかと考えるからである。また、実習課題を行ったことに対する各自の意見（苦勞した点や工夫した点など）を提出させ、それで終わりとするのではなく、時間が許す限り学生自身に授業時間内で発言してもらうよう試みた。他にどういった意見があるのかを知ること、「情報を共有すること」も必要だと考えたからである。

そして「必ず取り組み、提出する」ために、manaba のコースコンテンツを使用し、その回の授業で何をしたか、どのような課題が出ているのかを「授業進捗（授業内容）」として授業終了後に更新し、学生が確認できるようにしている。同時に、その回で配布した資料（印刷物）も PDF ファイルで提示している。（これまでは、学内ネットワークの共通ドライブ内に教材として授業進捗状況を示し、使用した実習ファイル・指示書ファイルを更新していた。今期はこの方法も併用した。）提出方法も manaba のレポート機能を主に使用し、提出期限は次回授業日前日に設定している。その回の授業で何をしたのか学生が確認できるようにすることで、授業を欠席した学生も「課題に必ず取り組み提出する」ことが可能である。欠席した場合でも成績評価につながる課題を提出する機会があることが、学生の授業への参加意思の持続につながることを考えている。

### 3. 今後の課題

今期は授業形態が変更になったことにより、テキストの使用が無くなった。そのため学生には、その回

の授業資料として印刷したものを配布している。その回のポイントとなる箇所は、説明時にマーカーなどを使用し、実際に線を引くところを書画カメラで見せるなどして、意識してもらうようにしている。もちろん、説明時にはメモを取るなどするように促している。しかし、印刷したその資料は、実際には役に立っていない、あるいは使われていないと感じており、配布する資料のあり方を見直す必要があると反省している。例えば、説明を聞き、その時点では資料にチェックをしている学生であっても、実習課題を提出させると、チェックした事柄を忘れてしまっている学生が少なからずいる。「そこにチェックを入れたのはなぜか？」が正しく学生に伝わっていない、あるいは理解されていないという点で、反省すべき事例である。

また、授業の運営にあたり心がけている、「学生に最後までやり遂げてもらう」という考えが前面に出過ぎているために、学生が「とりあえず何でも提出すればいいのだろう」という考えになってしまっているのかもしれない。そうならない様子を気をつけているつもりだが、やはり学生の授業履修目的に見られる温度差が授業態度にも現れる結果となっていることに、言葉がけの難しさを痛感している。

学生に理解し習得してもらいたい事柄をその場限りの理解・習得ではなく、いかにその後の実践につなげてもらうか、そのための最善の方法は何かを模索し、学生にとってよりよい授業にしていくことが今後の課題だと考える。

今回、公開授業という場を設けていただき、その後の意見交換会において先生方の貴重なご意見を伺うことができたことは、授業運営がいかに難しいものであるかを改めて考える機会となりました。この経験を今後の糧とし、授業運営の改善に努めてまいりたいと思います。ありがとうございました。



## 「地域探究特殊講義」

狭間 惠三子

(公共学部公共学科 教授)

この度は、公開授業を参観くださりありがとうございました。また意見交換会では、貴重なコメントを頂戴し、感謝申し上げます。

### 1. 授業の概要、目的

「地域探究特殊講義」では、まず世界遺産とは何かを理解をした上で、2019年に大阪初の世界遺産として登録された百舌鳥・古市古墳群について、資産の特徴や価値について学びます。そして百舌鳥・古市古墳群が、なぜ日本のみならず、人類全体にとって重要性を持つ、傑出した価値を持つ資産であると認められたのかを理解します。

さらに、世界遺産の目的と課題、地域社会が果たすべき役割について考察を深めるとともに、国際条約について視野を広げることを目的としています。

「世界遺産条約」は、人類にとって普遍的価値を持つ文化遺産や自然遺産を守っていくことを目指したものです。しかし開発や紛争のために多くの世界遺産が危機遺産に指定されており、開発を優先して登録抹消になった世界遺産もあります。政治的な軋轢によりユネスコから離脱する国もあるなど、様々な課題を抱えています。

有力な観光ツールでもある世界遺産は地域社会に恩恵をもたらしますが、同時に地域社会は遺産保護

の責任も負うこととなります。貴重な遺産を将来世代にいかに関承していくべきか、現代を生きる我々が果たすべき役割について学習します。

## 2. 授業の工夫

後期は対面授業でスタートしましたが、授業時間が短縮される中でも理解を深めてもらいたい。そのために、予め manaba に講義資料をアップし、それを一読の上、授業に出てもらいます。

資料では、毎回の授業のポイント、理解すべき点をわかりやすく伝えるように努めています。15 回の授業が終わった後に学生が講義資料を通観すれば、自分が何を学んできたのか、この授業を通してどのような知識を得、何を理解すべきなのかを会得できるようにしたいと考えています。

まだ見ぬ世界遺産の価値を実感してもらうために、講義ではできるだけ動画や写真等のビジュアルを用意します。



また、授業後に受けた質問は受講生全員に知っておいてほしい内容も多く、次の講義の際に「前回授業時の質問と応答」を、パワーポイントを使い全員に解説します。時折、授業後に内容に関する簡単な感想やアンケートを書いてもらいますが、その結果（集計や代表的な意見等）についても次回の講義で紹介します。アンケートを実施しない時は、授業後に「今日は何も書かないのですか？」と聞いてくる学生もおり、

アンケートをキャッチボールのような役割として受け止めているようです。

受講生が 200 人を超えるため、一人ひとりとの対話は難しいですが、アンケートの活用や、質疑応答等を共有することで、できるだけ主体的・対話的な深い学びにつなげたいと考えています。

## 3. 今後の課題

受講生の世界遺産に対する興味や知識の差がかなりあると感じます。興味を持っている学生は常に前方の席に座り、授業後も熱心に質問をしてくれます。本講義に限りませんが、講義内容や進捗の前提となる学生の知識等の差が激しく、どこに焦点を当てるかが課題です。

## 4. 参観教員のコメントとそれに対する回答

### <コメント1>

わかりやすく要点をまとめたレジュメと図表や写真も多用されたスライドで、教材の構成・編集が行き届いていた。レジュメの項目に番号が振られていると、今どこを講義しているかがよりわかりやすいと思う。

Power Point で作成したスライドと配布資料を併用して説明。配布資料は後日見返すことを想定したもので、コロナ禍で復習の重要性が高まっている中、手間はかかるが望ましい資料作成のあり方である。スライドにしか表示されない情報もあり、配布資料をもらって一安心というわけにはいかず、学生の授業への集中を促す効果もある。



### <回答>

manaba での予習・復習時やレポート作成時に資料を振り返ることで、自分が学んできたことや会得すべき知識や課題などが把握できるように、と考えてレジユメを作成しています。

世界遺産の価値を少しでも感じることができるよう、講義では動画や写真等、できるだけビジュアルを用意し、レジユメとパワーポイントとの関連づけに留意していますが、よりわかりやすくレジユメに記すなど工夫をしていきたいと思えます。

### <コメント2>

百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されるまでの長期にわたるプロセスは、登録までの実務の過程を伝える大変興味深い内容である。今は短縮授業で時間がとりにくいが、もう少し詳しく説明しても良いのではないか。

### <回答>

1 時間に多くの要素を入れてしまいがちで、もう少し噛み砕いてゆっくり説明するようにします。

### <コメント3>

講義の中で、学生からの質問に寄せて、世界遺産の理念と国際政治の現実が交錯し葛藤する出来事を紹介していた。世界遺産条約に限らずパリ協定や WHO の問題もあげ、国際政治を超えて人類共通の宝や利益をどのように維持継続させるかという問いを投げかけていた。質問した学生だけでなく多くの学生に対して、共に考える課題、問題提起として有意義である。

### <回答>

体系的な理解や広い視点での思考力を持ってもらいたいので、国際的な課題やそれに関連するタイムリーな話題なども交えて話すようにしています。授業後に学生から受けた質問への応答なども、全ての受講生に説明することで、少しでも知識や視野を広げてもらいたいと考えています。

### <コメント4>

授業 30 分後の一斉放送の前後で授業の内容がちょうど区切られており、放送時間を利用して出席を取っている。受講サイドからは講義内容の進行を妨げられた感がなく、時間も有効に活用している。

### <回答>

授業の際は講義の展開と出席をとるタイミングを意識しています。現在は、他の講義でも大抵一斉放送の時間を利用して出席を取っています。



## 3 令和2年度 授業アンケート

### 3-1 実施方法

本学では、学生の学習に対する考え方や学習意欲を把握し、本学の教育活動の推進に活用することを目的に、学生を対象にした授業アンケートを毎年2回実施している\*。今年度の実施期間は、前期第14週～第15週にあたる2020年7月20日(月)～31日(金)[アナウンス期間7月20日(月)～24日(金)]と、後期第14週～第15週にあたる2020年1月12日(火)～25日(月)[予備日1月12日(火)～18日(月)]であった。

この授業アンケートは各回1教員につき1科目ずつ行うことになっている。従来は実施期間中の授業時間内に、携帯電話やスマートフォンによる出席確認システムを用いて行っている(機器が使用できない場合は用紙での対応)。しかし、今年度の前期は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて全面的にオン



ライン授業になったことで、実施期間中であれば学生はいつでも授業アンケートに回答できる、という形式になった。後期は第 10 週までは対面授業が行われたものの、第 11 週からオンライン授業に切り替わったため、前期と同様の形式で授業アンケートが行われた。

※ 2017 年度までは年 1 回の実施であったが、新学科開設や授業半期化といった教育課程の改編に伴い、2018 年度からは前期と後期にそれぞれ 1 回ずつ（年 2 回）実施するようになった。

### 3-2 対象科目

授業アンケートの対象科目は、基本的には各教員が担当する科目の中で受講人数が最も多いものとなっている。受講人数や担当科目の変動によって、必ずしも毎年度同じ科目が対象になるわけではない。同一科目のこれまでの授業アンケート結果と比較して経年変化を見たい、あるいは別の科目について学生の意識や反応を知りたいなど、教員の要望や判断によって対象科目を変更することも可能である。

### 3-3 アンケートの内容

今年度前期は全面的にオンライン授業が行われ、後期は途中第 11 週目より対面授業からオンライン授業に切り替わった。昨年度に実施した授業アンケートの内容は、対面授業に対応したものになっている。このため、今年度の授業アンケートでは、オンライン授業に対応するように、設問内容を改編したものが使用された。

昨年度の授業アンケート（表 1 参照）では、回答者の学年、学科、出席率を尋ねる Q1~Q3 の設問に続いて、「授業内容について」、「教員について」、「あなた自身について」、「総合」の 4 つのテーマに分類される Q4~Q18 の 15 の設問が並んでいる。今年度の授業アンケート（表 2 参照）では、このうちの Q1~Q3、Q4~Q9、Q12、Q16、Q18 が用いられた。

### 3-4 教員からのフィードバック

授業アンケート結果に対するフィードバックとして、各教員は自身の授業に関する「振り返りシート」に記入し、期日〔前期は 2020 年 8 月 31 日（日）、後期は 2021 年 2 月 27 日（土）〕までに

表 1 2019 年度授業アンケート

このアンケートは、授業について皆さんの意見を聞き、教員が授業をより充実させるために実施するものです。回答内容があなたの成績に影響することは一切ありませんので、率直な回答をお願いします。該当の項目にチェック☑して回答してください。

Q1 あなたの学年を選んでください。  
 1 年生     2 年生     3 年生     4 年生     その他

Q2 あなたの学科を選んでください。  
 経済学科     経営学科     商学科     公共学科     公共経営学科     その他

Q3 あなたはこの授業にどの程度出席していますか。  
 全て     8 割以上     6 割以上     4 割以上     4 割未満

Q4~Q 18 の回答は、以下の基準にしたがって、あてはまる番号を 1 つ選んでチェック☑してください。

	1 全く そう思わない	2 あまり そう思わない	3 どちらとも いえない	4 ある程度 そう思う	5 強く そう思う
<b>11 授業内容について</b> 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: どちらともいえない 4: ある程度そう思う 5: 強くそう思う					
Q4 関心が持てる授業内容である。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q5 教員の授業内容の説明はわかりやすい。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q6 テキスト・板書・資料等が内容の理解に役立っている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q7 成績の評価方法がわかりやすく示されている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q8 この授業を受けて、自分が何を学ぶべきか明確になった。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q9 この授業を受けて、いろいろな視点から物事を見ることができるようになった。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
<b>12 教員について</b> 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: どちらともいえない 4: ある程度そう思う 5: 強くそう思う					
Q10 言葉が聞き取りやすい。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q11 熱意をもって授業をしている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q12 計画的に授業をしている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q13 静かな環境で学生が受講できるように配慮している。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
<b>13 あなた自身について</b> 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: どちらともいえない 4: ある程度そう思う 5: 強くそう思う					
Q14 私語や居眠りなどをせずに授業に集中している。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q15 遅刻や途中退出をしていない。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q16 授業の内容が理解できている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q17 授業時間外でも、この授業のための学習をした（予習・復習、課題の準備などを含む）。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
<b>14 総合</b> 1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: どちらともいえない 4: ある程度そう思う 5: 強くそう思う					
Q18 総合的にみて、この授業に満足している。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
<b>15 自由記入欄</b> ※担当教員の指示に従って記入してください。					

ご協力ありがとうございました。

表 2 2020 年度授業アンケート

このアンケートは、授業について皆さんの意見を聞き、教員が授業をより充実させるために実施するものです。回答内容があなたの成績に影響することは一切ありませんので、率直な回答をお願いします。該当の項目にチェック☑して回答してください。

Q1 あなたの学年を選んでください。  
 1 年生     2 年生     3 年生     4 年生     その他

Q2 あなたの学科を選んでください。  
 経済学科     経営学科     商学科     公共学科     公共経営学科     その他

Q3 あなたはこの授業にどの程度取り組んでいますか。  
 全て     8 割以上     6 割以上     4 割以上     4 割未満

Q4~Q 12 の回答は、以下の基準にしたがって、あてはまる番号を 1 つ選んでチェック☑してください。

	1 全く そう思わない	2 あまり そう思わない	3 どちらとも いえない	4 ある程度 そう思う	5 強く そう思う
1: 全くそう思わない 2: あまりそう思わない 3: どちらともいえない 4: ある程度そう思う 5: 強くそう思う					
Q4 関心が持てる授業内容である。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q5 教員の授業内容の説明はわかりやすい。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q6 テキスト・解説資料等が内容の理解に役立っている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q7 成績の評価方法がわかりやすく示されている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q8 この授業を受けて、自分が何を学ぶべきか明確になった。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q9 この授業を受けて、いろいろな視点から物事を見ることができるようになった。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q12 教員は計画的に授業をしている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q16 授業の内容が理解できている。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
Q18 総合的にみて、この授業に満足している。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

ご協力ありがとうございました。

教務課に提出することになっている。これは、各教員が出席確認システム「Saai-MAS」から授業アンケートの集計結果を確認し、感じた点や学生にフィードバックすべき点、授業運営で工夫している点について自由記述形式で記入するようになっている。

### 3-5 結果の開示方法

授業アンケートの集計結果については、本学図書館で閲覧することができる。また、教員が「振り返りシート」に記述した授業運営で工夫している点の一部は、本学ホームページのFD活動ページにある、「<参考資料> 学生の学びを支援するための取組み紹介」の<取組み例>に掲載されている。

大阪商業大学 FDニューズレター 第22号

発行日：2021年3月20日

発行：大阪商業大学FD委員会

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

Tel 06-6781-8816 Fax 06-6781-6156